

# 第54期 事業報告書

(平成15年4月1日～平成16年3月31日)



## 株主メモ

決 算 期 毎年3月31日  
定 時 株 主 総 会 毎年6月下旬  
配当金受領株主確定日 3月31日  
中間配当を実施するときは9月30日  
基 準 日 毎年3月31日  
※その他必要がある場合は、予め公告いたします。  
1 単 元 の 株 式 数 1,000株  
公 告 掲 載 新 聞 日本経済新聞  
決算公告については、当社ホームページ (<http://www.toyogosei.co.jp/>) に掲載しております。  
株 式 名 義 書 換 代 理 人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社  
同 事 務 取 扱 場 所 〒135-8722  
(郵便物送付先及び連絡先) 東京都江東区佐賀一丁目17番7号  
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 03-5213-5213 (代表)  
同 取 次 所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店  
みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店  
単元未満株式の買取請求 単元未満株式の買取りは上記の名義書換代理人の事務取扱場所及び取次所でお取扱いいたしております。

## 東洋合成工業株式会社

〒272-0012 千葉県市川市上妙典1603番地  
TEL047-327-8080 FAX047-327-8085  
<http://www.toyogosei.co.jp/>



# 各事業部門のご紹介

## 感光性材料事業

Photosensitive Materials Business

当社は最新の高性能感光性材料を、半導体から液晶ディスプレイなどの製造工程に供給できるよう感光材研究所で研究開発しております。製品の高分解像性と品質の安定性はユーザーより高い評価を受けております。



## 化成品事業

Fine Chemicals Business

当社は、香料材料分野の生産と新規商品の開発に力を注ぎ販路を世界に求め、順調に販売量を増加させております。また、高性能な蒸留設備を使用し、使用済溶剤類の精製による溶剤類のリサイクルに取り組むなど、環境問題の解決にも貢献しております。



## ロジスティック事業

Logistics Business

化学メーカーが運営する物流基地という特色と、湾岸・京葉道路の至近に立地しているアクセスの良さに加え、ドラム缶への充填設備、ドラム缶・コンテナ保管用自動倉庫などの充実により、液体化学品の物流を支えております。



# 株主の皆様へ



代表取締役社長

木村 正輝

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

わが国経済は、ここ数年厳しい状況が続いておりましたが、当期におきましては期後半から、米国や中国の高成長にともなう海外需要の拡大による好調な海外輸出と民間設備投資の増加に支えられ、緩やかな景気回復傾向が見られ始めております。当社の主要関連業界の情報通信業は、薄型テレビなどのデジタル家電の好調な需要増大により、各社共に増産体制を整えるなど、活況を示しております。一方の関連業界である化学産業界は、依然厳しい状況が続いております。

このような環境のなか、当社は期初より、変化が激しく厳しさの増す事業環境に柔軟かつ迅速に対応し、働き甲斐のある職場環境の実現に向け、事業本部制への組織変更と業績寄与度を加味した新賃金制度を実施するなど、社内体制の整備を推進いたしました。収益面では、事業本部制実施による事業別収益管理を強化いたしました。この結果、営業の概況で報告のとおり、増収増益という成果をあげることができました。

55期につきましてもデジタル家電の需要は拡大し、当社の感光材事業は引き続き拡大基調が続くものと予想され、特に液晶向け感光材は需要の大幅増が見込まれます。最先端のArF用感光材は需要の増大も見込まれますが、開発競争も激しさを増すものと考えられます。また、国内外の経済情勢は、個人消費動向、円高、イラク情勢などの不安材料も多く、先行き不透明な情勢にあると考えられます。こうした経営環境の中で、当社は本年9月に設立50年を迎えることとなりますが、本年を今後の50年のスタートの年と位置づけ、新たな決意で業績の向上に取り組み、経営基盤の確立に邁進し、株主の皆様のご期待に応える所存であります。

何卒、株主の皆様には、倍旧のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

# 営業の概況

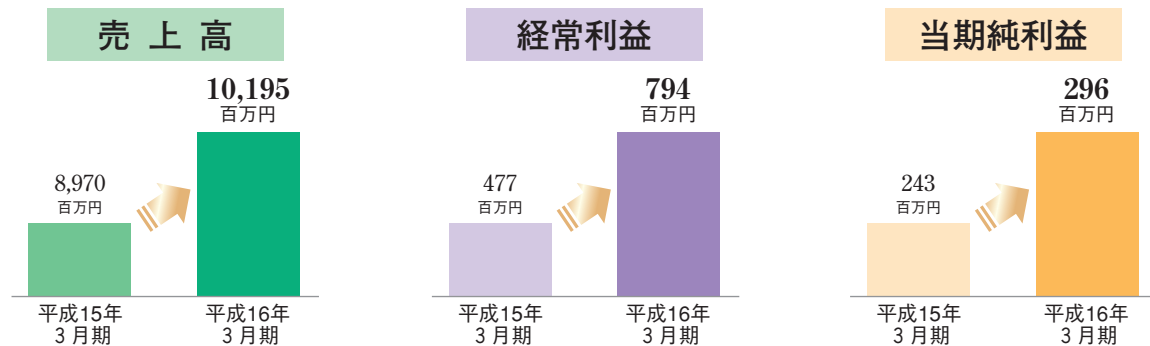
## 当期の概況

当期におけるわが国経済は、期の前半はイラク戦争、新型肺炎SARSの蔓延などの波乱に見舞われ、世界経済の低迷が懸念されるなど、景気の先行きに対する不透明感が広がりました。しかしながら、期央より米国、中国を中心とした輸出の好調と製造業の設備投資の増加、デジタル関連市場の拡大に支えられ、景気回復の兆が見られるようになりました。こうした経済環境の中、当社の関連業界の半導体・電子部品業界は、期央以降新三種の神器と呼ばれるDVDレコーダー、デジタルカメラ、薄型テレビを中心にデジタル家電の販売が好調に推移する状況を受け、生産設備の増設計画を相次いで発表するなど、事業環境は急速に好転しております。しかし、もう一方の関連業界である化学産業界は、アジア地域を中心とする低価格製品との競合激化により厳しい経営環境が続きました。このような情勢下、当社は、感光性材料の需要増大に備え、増産体制の整備を進める一方で、最先端の感光性材料の開発と

生産技術の確立に努めました。また、引き続き香料材料の売上増大に向けヨーロッパ市場の開拓を進めるなど、市場開拓と売上増加に努めました。また、顧客ニーズに迅速に対応する体制と事業別収益管理の強化のため、事業部制経営に組織変更し社内体制の整備を進めました。

この結果、半導体・電子部品業界の事業環境の好調さを受け、主力の感光性材料事業の売上高が大幅に増加したことにより、当期の売上高は、10,195,671千円と前年同期に比べ1,224,693千円（13.7%）増加し、初めて百億円の大台を超えることとなりました。損益面では、製造コストの低減と経費の削減に努めました結果、経常利益は、794,929千円と前年同期比317,427千円（66.5%）増加いたしました。また、連結子会社の株式売却などによる特別損失234,611千円を計上いたしました。当期純利益は296,759千円と前年同期比53,653千円（22.1%）増加いたしました。

## 当期（平成16年3月期）業績



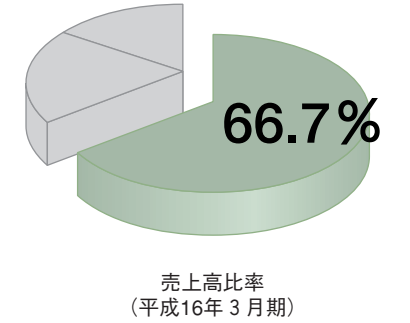
# 部門別の概況

## 感光性材料事業

当事業の主要関連産業である半導体・電子部品業界は、DVDレコーダー、デジタルカメラ、薄型テレビなどのデジタル家電の好調な売行きにより、業績を順調に伸ばしております。こうした状況を受け、期の前半は伸び悩んでいました感光性材料の需要も、期央より急激に増加し、売上高も急増いたしました。

用途別の売上高では、液晶向けが11.3%増加し、半導体向けは最先端のエキシマレーザー用感光材が39.2%増加し、半導体向け全体としても19.2%増加いたしました。

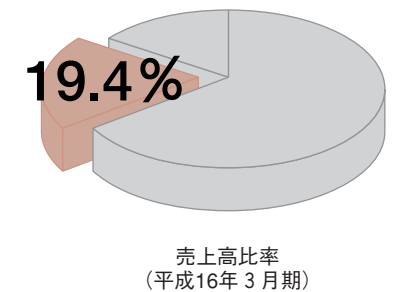
この結果、当事業の売上高は6,796,721千円（前年同期比+1,204,797千円、+21.5%）となりました。



## 化成産品事業

当事業の関連業界である汎用化学品業界の国際競争は激しさを増しており、厳しい経営環境にあります。こうした中、当社は香料材料新製品の開発に積極的に取り組み、香料材料を中心に海外市場の開拓に邁進するなど、国内外において積極的な営業を展開いたしました。香料材料の売上高は14.2%増加し、溶剤、機能性材料の売上高も増加いたしました。激しさを増す国際競争の影響を受け、農薬・医薬向け等の売上高は減少いたしました。

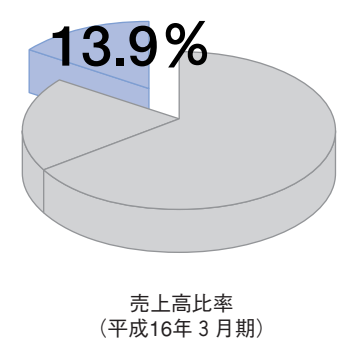
この結果、当事業の売上高は1,980,532千円（前年同期比△125,799千円、△6.0%）となりました。



## ロジスティック事業

物流コストの削減のための物流基地の見直し、集約化の動きは続いており、当事業を取り巻く環境は依然厳しい状況にあります。当社は、こうした厳しい環境に打ち勝つため、立地条件の良さと生産活動で培った液体化学品の高度な取り扱い・保管技術を背景に精力的な営業活動を展開いたしました。また、前期は、液体化学品総合物流基地としての機能強化のため、ドラム充填所、ドラム缶保管用立体自動倉庫建設など施設の増強を実施いたしました。

この結果、ドラム充填所、ドラム缶保管用立体自動倉庫の売上貢献と景気回復に伴う液体化学品の物流量増加などにより、当事業の売上高は1,418,418千円（前年同期比+145,696千円、+11.4%）となりました。



注) 上記、各事業部別・売上高前年同期比は、前年実績を当期において用いた事業本部制による区分に変更し、対比しております。

## 薄膜蒸発機導入

### ■ 化成品事業（市川工場）

平成15年10月、高沸点および感熱性物質の蒸留を可能にする流下膜式薄膜蒸発機を導入いたしました。

当社では従来、精製は塔型蒸留器で連続式に行なってきましたが、薄膜蒸発機を導入したことでこれまでできなかった蒸留精製が可能となり、高沸点および感熱性香料の製造が可能となりました。

装置能力および処理量は下記の通りです。

到達真空度：40Pa (0.3Torr)

最高加熱温度：160℃

処理能力：200kg/h



## ArFポリマー設備増強と薄膜蒸発器導入

### ■ 感光性材料事業（千葉工場）

千葉工場では、集積度が上がる一方の半導体製造に呼応できる次世代感光性材料を「高品質、低価格」で提供すべく工場一丸となって取り組んでおります。

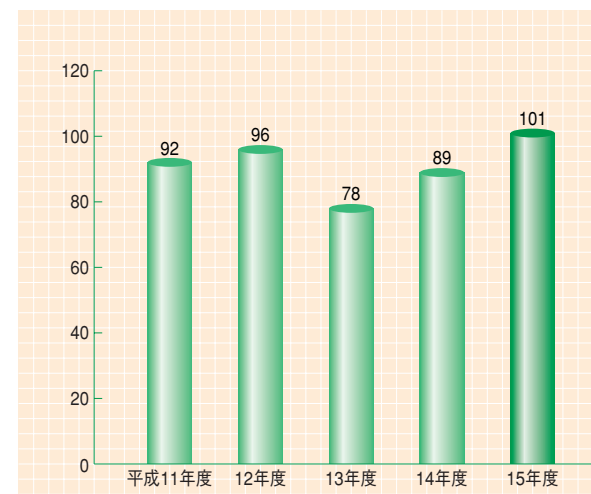
2002年11月末、ArF樹脂専用製造設備を竣工。今後増加するArF樹脂の需要にこたえるため、2004年5月末に年産10～15トンの製造設備を設置いたしました。

ArF樹脂は出発物質の単量体の組み合わせにより、多くの製品が開発されています。当社では、多品種の製品を「迅速、低価格」でお使いいただけるよう、原料単量体の合成からArF樹脂製造まで一貫して取り組んでゆきます。2003年10月には、原料単量体を効率的に精製するため、薄膜蒸発器を導入いたしました。薄膜蒸発器を活用することにより、従来分離精製が困難であった分子量の大きな物質の効率的な精製が可能になります。

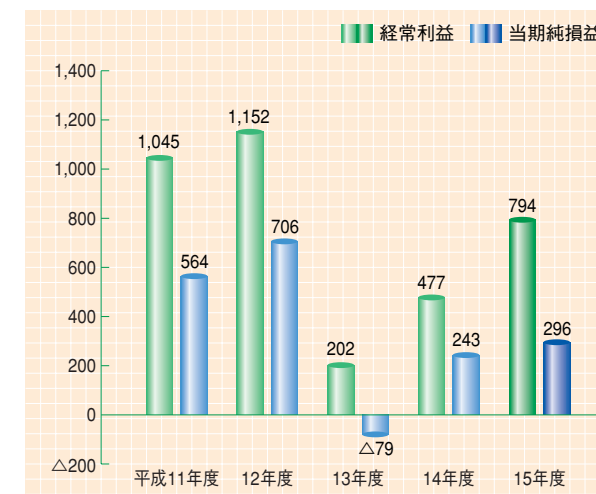
ArF樹脂設備増強と薄膜蒸発器を導入して、製品需要がのびる一方ますます多様化するArF樹脂品種のご注文に今後とも即応させていただきます。

# 業績等の推移

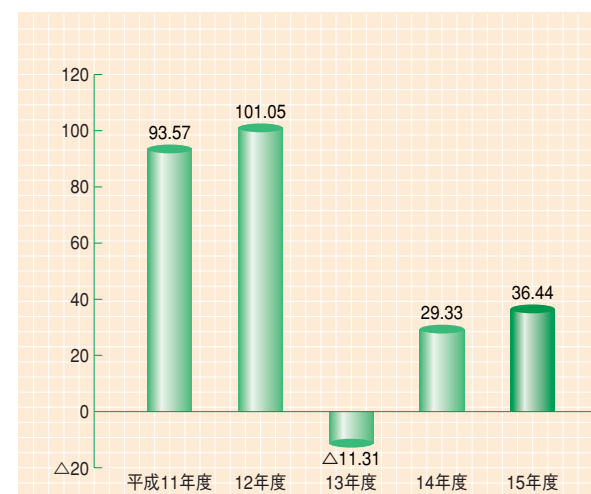
■ 売上高（億円）



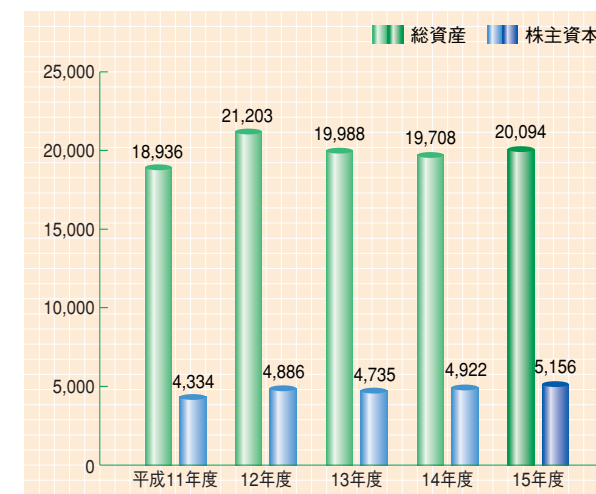
■ 経常利益・当期純損益（百万円）



■ 1株当たり当期純損益（円）



■ 総資産・株主資本（百万円）



# 財務諸表

## 貸借対照表

科目	期別	
	当 期 平成16年 3月31日現在	前 期 平成15年 3月31日現在
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>7,380,838</b>	<b>6,609,408</b>
現金・預金	1,732,985	1,786,844
受取手形	191,259	164,996
売掛金	2,207,603	1,408,096
製品	2,387,717	2,499,488
原材料	447,578	484,994
仕掛品	191,137	73,161
貯蔵品	23,051	27,881
前払費用	42,322	51,285
未収入金	22,809	31,150
繰延税金資産	136,454	83,128
その他	588	258
貸倒引当金	△ 2,670	△ 1,876
<b>固定資産</b>	<b>12,713,713</b>	<b>13,098,732</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>11,766,572</b>	<b>11,895,616</b>
建物	2,888,753	2,840,599
構築物	1,516,305	1,528,226
機械装置	3,052,648	3,158,032
船舶	252	252
車両運搬具	9,605	12,080
工具器具及び備品	232,830	232,147
土地	3,770,306	3,887,905
建設仮勘定	295,868	236,372
<b>無形固定資産</b>	<b>203,622</b>	<b>231,234</b>
借地権	100,000	100,000
ソフトウェア	96,908	124,367
その他	6,713	6,866
<b>投資その他の資産</b>	<b>743,519</b>	<b>971,880</b>
投資有価証券	348,595	242,237
子会社株式	48,800	372,195
出資金	600	600
長期貸付金	3,133	4,710
長期繰延税金資産	132,773	133,384
その他	231,780	242,254
貸倒引当金	△ 22,162	△ 23,502
<b>資産合計</b>	<b>20,094,552</b>	<b>19,708,140</b>

(千円未満切捨表示)

科目	期別	
	当 期 平成16年 3月31日現在	前 期 平成15年 3月31日現在
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>7,994,867</b>	<b>7,964,514</b>
支払手形	809,968	756,322
買掛金	610,671	375,198
短期借入金	2,500,000	2,820,000
一年内返済予定長期借入金	2,696,705	2,721,368
未払金	467,134	166,419
未払費用	95,393	51,902
未払法人税等	222,924	185,817
預り金	8,497	9,431
賞与引当金	249,691	181,901
設備関係支払手形	332,350	691,520
その他	1,529	4,631
<b>固定負債</b>	<b>6,943,572</b>	<b>6,821,407</b>
長期借入金	6,127,795	6,063,100
退職給付引当金	712,998	643,957
役員退職慰労引当金	102,779	114,349
<b>負債合計</b>	<b>14,938,439</b>	<b>14,785,921</b>
<b>資本の部</b>		
<b>資本金</b>	<b>800,088</b>	<b>800,088</b>
<b>資本剰余金</b>	<b>695,397</b>	<b>695,397</b>
資本準備金	695,397	695,397
<b>利益剰余金</b>	<b>3,615,657</b>	<b>3,426,652</b>
利益準備金	110,769	110,769
任意積立金	3,169,841	3,064,083
固定資産圧縮記帳積立金	219,841	214,083
別途積立金	2,950,000	2,850,000
当期末処分利益	335,047	251,800
<b>株式等評価差額金</b>	<b>56,662</b>	<b>792</b>
自己株式	△ 11,694	△ 712
<b>資本合計</b>	<b>5,156,112</b>	<b>4,922,219</b>
<b>負債及び資本合計</b>	<b>20,094,552</b>	<b>19,708,140</b>

## 損益計算書

科目	期別	
	当 期 自平成15年 4月 1日 至平成16年 3月31日	前 期 自平成14年 4月 1日 至平成15年 3月31日
<b>営業収益</b>	<b>10,195,671</b>	<b>8,970,977</b>
売上高	10,195,671	8,970,977
<b>営業費用</b>	<b>9,047,554</b>	<b>8,150,294</b>
売上原価	7,427,942	6,686,304
販売費及び一般管理費	1,619,611	1,463,990
<b>営業利益</b>	<b>1,148,116</b>	<b>820,682</b>
<b>営業外収益</b>	<b>50,589</b>	<b>51,511</b>
受取利息	474	549
受取配当金	9,018	2,195
その他の営業外収益	41,096	48,766
<b>営業外費用</b>	<b>403,776</b>	<b>394,691</b>
支払利息	240,437	246,905
その他の営業外費用	163,339	147,786
<b>経常利益</b>	<b>794,929</b>	<b>477,502</b>
<b>特別利益</b>	<b>10,684</b>	<b>6,931</b>
固定資産売却益	20	6,931
貸倒引当金戻入額	1,332	-
賞与引当金戻入額	9,331	-
<b>特別損失</b>	<b>234,611</b>	<b>47,104</b>
固定資産売却損	31,241	-
固定資産除却損	7,760	43,865
投資有価証券評価損	-	2,769
ゴルフ会員権評価損	-	470
子会社株式売却損	195,610	-
<b>税引前当期純利益</b>	<b>571,002</b>	<b>437,329</b>
法人税、住民税及び事業税	295,000	172,000
過年度法人税等修正額	69,892	-
法人税等調整額	△ 90,649	22,222
<b>当期純利益</b>	<b>296,759</b>	<b>243,106</b>
前期繰越利益	73,082	43,657
中間配当額	34,794	34,964
<b>当期末処分利益</b>	<b>335,047</b>	<b>251,800</b>

(千円未満切捨表示)

## 利益処分

科目	期別	
	当 期 自平成15年 4月 1日 至平成16年 3月31日	前 期 自平成14年 4月 1日 至平成15年 3月31日
<b>当期末処分利益</b>	<b>335,047</b>	<b>251,800</b>
これを次のとおり処分いたします。		
<b>利益処分額</b>	<b>227,794</b>	<b>178,717</b>
利益配当金	34,794 (1株につき5円)	34,959 (1株につき5円)
役員賞与金 (内監査役賞与金)	43,000 (5,460)	38,000 (4,600)
別途積立金	150,000	100,000
固定資産圧縮記帳積立金	-	5,758
<b>次期繰越利益</b>	<b>107,252</b>	<b>73,082</b>

- (注) 1. 平成14年12月10日付けで34,964,050円(1株につき5円)の中間配当を実施いたしました。  
2. 平成15年12月10日付けで34,794,850円(1株につき5円)の中間配当を実施いたしました。

# 会社の概要 (平成16年3月31日現在)

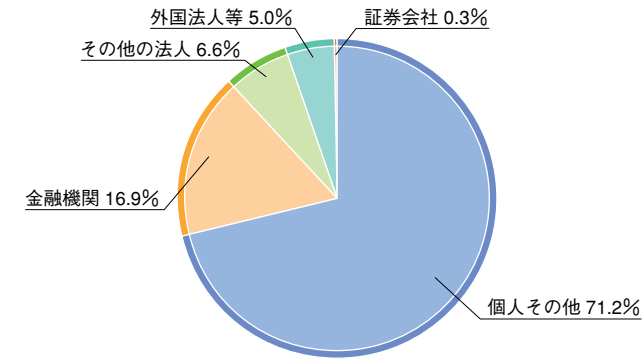
- 商号 東洋合成工業株式会社
- 設立 昭和29年9月27日
- 資本金 800,088,703円
- 本社所在地 千葉県市川市上妙典1603番地
- 従業員数 279名
- 事業内容 有機工業薬品・有機溶剤等の製造ならびに販売  
画像形成用の感光性材料等の製造ならびに販売  
電子表示機器の材料等の開発、製造ならびに販売  
倉庫業（液体化学品の保管管理）  
貨物運送取扱業
- 事業所
  - 東京営業所  
東京都中央区八丁堀4丁目13番1号
  - 高浜油槽所  
千葉県市川市高浜町7番地
  - 感光材研究所  
千葉県印旛郡印旛村若萩4丁目2番1
  - 市川工場  
千葉県市川市上妙典1603番地
  - 千葉工場  
千葉県香取郡東庄町宮野台1番51
  - ヨーロッパ事務所  
Teleport Towers Kingsfordweg 151  
1043 GR Amsterdam The Netherlands
- 関係会社 TG Finetech Inc.

- 役員
  - 代表取締役社長 木村正輝
  - 専務取締役 春田雅彦
  - 常務取締役 青木久昂
  - 取締役 菊池薫
  - 取締役 木村正子
  - 取締役 稲垣毅夫
  - 取締役 越後谷桂之介
  - 常勤監査役 伊藤衛
  - 監査役 安田瑛太郎
  - 監査役 宮田勲
  - 監査役 岡野早苗

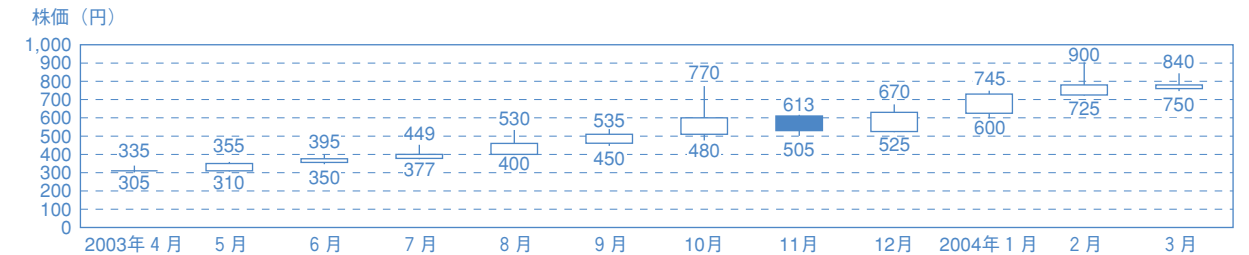
# 株式の状況 (平成16年3月31日現在)

- 会社が発行する株式の総数 20,000,000株
- 発行済株式総数 6,993,390株
- 株主数 687名

## 株式の分布状況（自己株式を除く）



## 株価の推移



## 大株主

株主名	持株数	議決権比率
木村正輝	1,960,470株	28.0%
木村有仁	313,000	4.5
木村愛理	313,000	4.5
株式会社千葉銀行	298,100	4.3
株式会社東京都民銀行	298,000	4.3
片岡文子	240,000	3.4
木村源四郎	210,000	3.0
東洋合成工業社員持株会	175,220	2.5
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	171,000	2.4
昭和エンジニアリング株式会社	170,000	2.4